# スポーツカー拠点整備

## ネッツ石川 新ブランド専門店

### 白山に来年6月

ネッツトヨタ石川（金沢市）は来年6月、トヨタが展開する新たなモータースポーツブランド「GR」の情報発信拠点となる新店舗を白山市横江地区に開業する。スポーツカーを展示・販売するほか、サーキット走行を体験できるシミュレーターなどを設置して車ファンの獲得・創出を図る。

新店舗「GRガレージ白山インター」は、直営板金工場に併設する。建物は2階建て、店舗面積は約424平方㍍で、板金工場の土地取得、建設費用と合わせて総投資額は15億円超となる。

来年1月、金沢市の鞍月店に店舗内店舗として先行開業し、新拠点の完成後に移転する。店内には自動車をカスタマイズするスペースや車ファンが集う交流室も設けるほか、「GRコンサルタント」と呼ばれる専任スタッフ2人を配置し、改造の相談などに応じる。

GRガレージは2017年度中に全国で39店舗が設置される。北陸ではネッツトヨタ富山（富山市）も展開する。

19日、金沢市内で会見したネッツトヨタ石川の架谷洋司社長は「モータースポーツ振興を通じ、車ファンの拡大に努めたい」と抱負を述べた。

上 来年6月に開業する「GRガレージ白山インター」の完成イメージ
下 19日に発売されたGR仕様の車両＝金沢市のネッツトヨタ石川鞍月店

### 6車種を投入

19日にはGR仕様の6車種が投入された。「ヴィッツ、「ハリアー」と「マークX」はトヨペット、「ノ

# 小池田氏が会長就任へ

## 石川県信用保証協 北都鉄工会長

石川県信用保証協会長に北都鉄工（金沢市）の小池田康成会長（80）＝写真＝が就く見通しになった。27日の理事会で正式決定する。元県副知事で会長を務めていた彦本勇寿氏が8月4日に死去し、会長ポストは空席となっていた。会長は2人続けて県特別職のOBが就任しており、民間出身者が務めるのは11年ぶりとなる。

小池田氏は27日、谷本正憲石川県知事から協会理事の任命を受けた後、理事会で互選により会長に就任する方向となっている。任期は3年。民間企業の経営者としての経験が長く、19日の北都鉄工取締役会で代表権のない会長となったことから、県信用保証協会長を務める環境が整ったとみられる。

小池田氏は二水高卒後、1956年、クレーンや橋梁などの製造を手掛ける北都鉄工に入社した。73年に社長に就き、2003年から代表権を持つ会長を務めていた。石川県鉄工機電協会相談役や金沢商工会議所常議員を務めている。

# 風力受け入れ

## 北電、8月末 近く

北陸電力は19日、風力発電の買い取りについて、受け入

# 金沢「100万円見えた」

## 北陸信越5県「新幹線駅前」

### 3年連続伸び2桁 新潟と差広げる

北陸信越5県の県庁所在地にある「新幹線駅前」の基準地価では、金沢が上昇率、価格ともトップとなった。最高価格92万円の金沢が3年連続で2桁の上昇率を示した一方、新潟は9年連続で下落し、価格差は前年から10万5千円広がった。旺盛な開発需要を背景に金沢は上昇傾向が続くとみられ「来年も2桁伸びれば、100万円の大台が見えてくる」（石川県企画課）との声も出ている。

◇　◇

金沢（金沢市本町2丁目）は2012年以降、6年連続で上昇しており、今年の上昇率12・2％は16年の13・1％に次ぐ高い伸び率を示した。石川県によると、金沢駅前は北陸新幹線開業効果でホテルやマンションの開発、飲食店のテナント需要が依然として高い。金沢市内のオフィスビルの空室率は16年6月の10・4％から今年6月には7・7％に減っている。

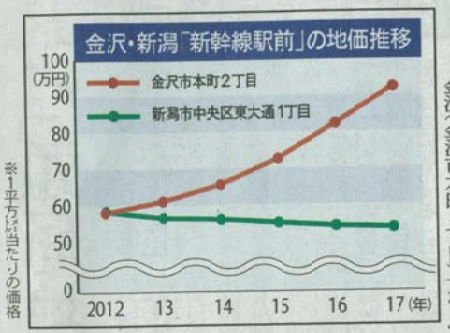
08年に69万4千円だった新潟（新潟市中央区東大通1丁目）は09年に67万円になって以降、下落を続けている。新潟県によると、駅前は老朽化したビルが多く、オフィスの空室率は上昇している。用地・土地利用課の担当者は「近年、地価で活発な動きはなく、停滞している」と話す。新潟以外の新幹線駅前では、上越妙高や糸魚川駅前も民間投資が進んでいないという。

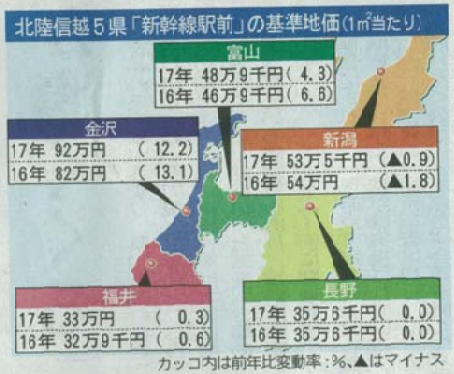
石川、新潟を除く駅前の1平方㍍当たりの最高価格は、富山（富山市桜町2丁目）48万9千円、長野（長野市南長野石堂東沖）35万6千円、福井（福井市大手2丁目）33万円だった。

3位の富山は上昇率が4・3％と16年の6・6％から伸び率は縮小したものの、プラスを維持した。新潟が前年に比べて0・9％下落したため、富山と新潟の価格差は前年の7万1千円から4万6千円に縮まった。

富山県によると、20年に富山駅南北を走る路面電車が接続するなど駅周辺の連続立体交差事業が続く間は上昇傾向が見込まれるという。県民生活課の担当者は「上昇率に一服感は出ているが、現在進行形の事業が引き続き地価を押し上げるのではないか」との見通しを示した。

長野は2年連続の横ばいだった。その一方、2022年度に新幹線敦賀開業を控えた福井は、上昇率0・3％と小さいながら3年連続のプラスとなった。福井県の担当者によると、駅西広場の完成や、路線バス停留所の移設による利便性向上などで需要が高まっているという。




### 富山駅北 4.6％上昇

富山県内の変動率では、富山市牛島町の商業地が前年比4・6％上昇し、1975（昭和50）年の調査開始以来、富山駅北の地点が初めてトップになった。富山市の全用途平均は0・3％上昇と4年連続プラスで、北陸新幹線開業3年目に入り、富山駅南を中心に進んできた土地需要の高まりが駅北にも広がっている。

富山県内の全226調査地点のうち、地価が上昇した地点は前年と同じ19地点、横ばいは1減の105地点となった。

商業地の最高価格は、伸び率が4・3％上昇となった富山市桜町2丁目の1平方㍍当たり48万9千円で、26年連続トップだった。住宅地は13年連続で同市神通南町で、同10万8千円だった。

富山駅北エリアでは、奥田寿町の住宅地の伸び率が3・2％上昇となり、昨年の5・4％上昇に続いて堅調な伸びを見せた。

（北陸経済）